

平成22年3月17日  
大臣官房統計情報部  
社会統計課縦断調査室  
室長 市川 隆之  
室長補佐 吉川 英樹  
(担当・内線) 成年者調査係 (7592)  
(電話代表) 03 (5253) 1111  
(ダイヤルイン) 03 (3595) 2413

## 第7回21世紀成年者縦断調査 (国民の生活に関する継続調査) 結果の概況

### 目 次

調査の概要	1 頁
結果の概要	
I 第1回調査時の就業形態別にみたこの6年間の結婚・出生の状況	3
II 第1回調査時の独身者の結婚の状況	
1 この6年間の結婚の状況	4
2 所得額別にみた状況	5
3 結婚意欲の変化	6
III 夫婦における子どもの出生の状況	
1 この6年間の出生の状況	7
2 夫の休日の家事・育児時間別にみた状況	8
3 子どもをもつ意欲の変化	9
IV 就業の状況	
1 就業の変化	11
2 結婚の状況別にみた就業状況の変化	12
3 仕事をしていた女性の結婚後の就業継続の有無	13
4 出生の状況別にみた仕事をしていた妻の就業継続の有無	14
5 この5年間の平均所得の状況	16
参考	17
用語の定義	20

第7回21世紀成年者縦断調査の結果は、厚生労働省のホームページにも掲載されています。  
アドレス ( <http://www.mhlw.go.jp/toukei/index.html> )

# 調査の概要

## 1 調査の目的

この調査は、調査対象となった男女の結婚、出産、就業等の実態及び意識の経年変化の状況を継続的に観察することにより、少子化対策等厚生労働行政施策の企画立案、実施等のための基礎資料を得ることを目的として、平成14年を初年として実施しているものである。

## 2 調査の対象及び客体

平成14年10月末時点で20～34歳であった全国の男女（及びその配偶者）を対象とし、そのうち、第5回または第6回調査において協力を得られた者（及びその配偶者）を客体とした。第1回調査対象者の第7回調査における年齢は、26～40歳である。

## 3 調査の期日

調査の周期 毎年1回（11月の第一水曜日）

調査の期日 第7回調査 平成20年11月5日（水）

## 4 調査票の種類等

(1) 男性票、(2) 女性票

平成14年10月末時点で20～34歳であった男女が記入

(3) 配偶者票（男性用）、(4) 配偶者票（女性用）

① 第1回調査時点で男性票、女性票の配偶者で、年齢が19歳以下、35歳以上であった者が記入

② 第2回調査以降、男性票、女性票の対象者の、新たな配偶者となった者が記入

## 5 調査の事項

(1) 男性票 …… 仕事の有無、就業形態、配偶者の有無、家事・育児時間、親との同居の有無、独身者の結婚意欲、子どもをもつ意欲、前年の所得、退職理由等

(2) 女性票 …… 仕事の有無、就業形態、仕事と子育ての両立支援制度の状況、配偶者の有無、親との同居の有無、独身者の結婚意欲、子どもをもつ意欲、子どもの状況、前年の所得、退職理由等

(3) 配偶者票（男性用） …… 仕事の有無、家事・育児時間、子どもをもつ意欲等

(4) 配偶者票（女性用） …… 仕事の有無、就業形態、仕事と子育ての両立支援制度の状況、子どもをもつ意欲、子どもの状況等

## 6 調査の方法

(1) 調査員があらかじめ配布した調査票に被調査者が自ら記入し、密封したものを後日調査員が回収する方法により行った。

(2) 第1回調査以降に転出した者は、厚生労働省から郵送された調査票に被調査者が自ら記入し、郵送により厚生労働省に提出する方法により行った。

## 7 調査の系統

- (1) 厚生労働省 ———— 都道府県 ———— 保健所 ———— 調査員 ———— 被調査者  
└─── 保健所設置市 ───┘  
特 別 区
- (2) 厚生労働省 ———— 被調査者  
郵送

## 8 結果の集計及び集計客体

結果の集計は、厚生労働省大臣官房統計情報部において行った。

調査客体数、回収客体数、集計客体数は次のとおりである。

なお、本概況における集計客体数とは、調査客体となって以降、継続して集計可能である客体をいう。

	調査客体数	回収客体数	集計客体数
男性票	7,971	7,222	6,300
女性票	8,822	8,115	7,130
配偶者票（男性用）	2,274	2,112	1,413
配偶者票（女性用）	1,136	1,021	593
計	20,203	18,470	15,436

(参考) 第1回からの調査客体数と回収客体数（男性票、女性票）

	調査客体数	回収客体数	回収率
第1回	33,689	27,893	82.8%
第2回	29,683	24,393	82.2%
第3回	25,330	21,563	85.1%
第4回	22,425	19,716	87.9%
第5回	20,204	17,990	89.0%
第6回	18,281	16,444	90.0%
第7回	16,793	15,337	91.3%

## 9 利用上の注意

(1) 表章記号の規約

計数のない場合	—
表章することがふさわしくない場合	…

(2) この概況に掲載の数値は四捨五入してあるので、内訳の合計が「総数」に合わない場合がある。

(3) この概況に掲載の数値には、統計数が僅少のため利用する際に注意が必要なものが含まれる。

# 結果の概要

## I 第1回調査時の就業形態別にみたこの6年間の結婚・出生の状況

第1回調査時の独身者はこの6年間で、男性26.0%、女性32.5%が結婚し、そのうち男性8.9%、女性13.0%に出生があった。

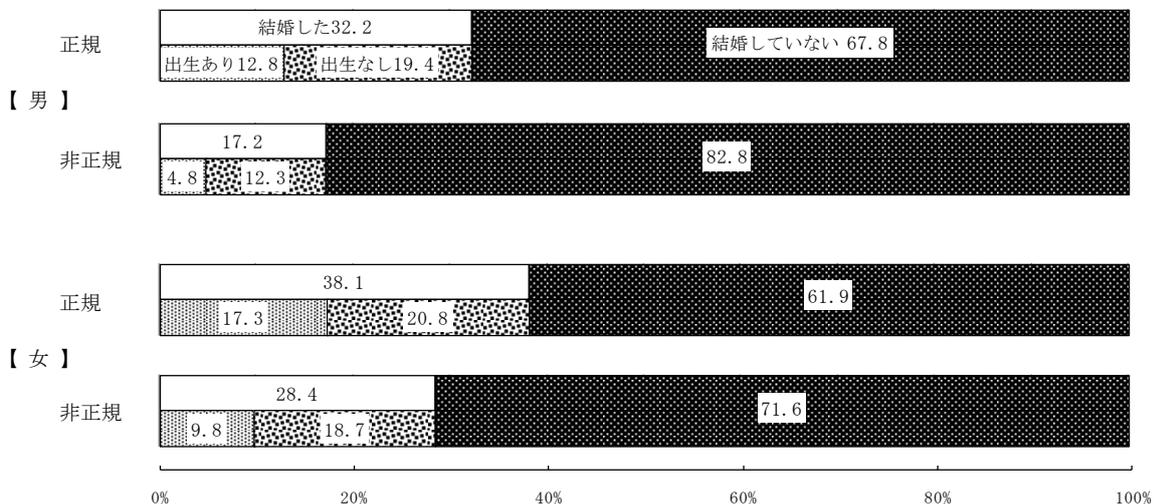
第1回調査時の就業形態別にこの6年間の結婚、出生の状況をみた。第1回調査時に独身であった正規のうち、男32.2%、女38.1%、非正規のうち男17.2%、女28.4%が結婚した。また、この6年間に結婚し出生ありの者は、正規では男12.8%、女17.3%、非正規では男4.8%、女9.8%となっている。(表1、図1)

表1 性、第1回調査時の就業形態別にみたこの6年間の結婚・出生の状況

		総数		この6年間に結婚した		結婚して□ない		(単位: %)	
				この6年間に出生あり	この6年間に出生なし				
男	第1回調査時に独身	(100.0)	100.0	26.0	8.9	17.1	74.0		
	仕事あり	(81.0)	100.0	27.9	10.0	18.0	72.1		
	(再掲) 正規	(48.3)	100.0	32.2	12.8	19.4	67.8		
	(再掲) 非正規	(17.6)	100.0	17.2	4.8	12.3	82.8		
	仕事なし	(15.7)	100.0	16.6	4.3	12.3	83.4		
		総数		第1回調査時子どもあり	第1回調査時子どもなし				
				この6年間に出生あり	この6年間に出生なし	この6年間に出生あり	この6年間に出生なし		
	第1回調査時に既婚	(100.0)	100.0	81.2	32.6	48.6	18.8	11.8	7.1
	仕事あり	(96.0)	100.0	81.0	32.4	48.6	19.0	11.9	7.1
	(再掲) 正規	(75.0)	100.0	80.7	32.1	48.6	19.3	11.8	7.5
(再掲) 非正規	(3.5)	100.0	68.7	37.3	31.3	31.3	17.9	13.4	
仕事なし	(2.2)	100.0	83.7	32.6	51.2	16.3	9.3	7.0	
女	第1回調査時に独身	(100.0)	100.0	32.5	13.0	19.5	67.5		
	仕事あり	(82.7)	100.0	34.1	13.9	20.2	65.9		
	(再掲) 正規	(46.0)	100.0	38.1	17.3	20.8	61.9		
	(再掲) 非正規	(29.8)	100.0	28.4	9.8	18.7	71.6		
	仕事なし	(15.6)	100.0	24.8	8.5	16.3	75.2		
		総数		第1回調査時子どもあり	第1回調査時子どもなし				
				この6年間に出生あり	この6年間に出生なし	この6年間に出生あり	この6年間に出生なし		
	第1回調査時に既婚	(100.0)	100.0	82.7	28.9	53.8	17.3	9.8	7.5
	仕事あり	(47.2)	100.0	74.8	22.6	52.2	25.2	13.9	11.3
	(再掲) 正規	(15.9)	100.0	68.4	27.3	41.1	31.6	21.3	10.4
(再掲) 非正規	(22.0)	100.0	74.4	17.2	57.3	25.6	12.1	13.5	
仕事なし	(51.3)	100.0	90.2	34.6	55.6	9.8	6.2	3.6	

注：1) 「第1回調査時に独身」の集計対象は、第1回調査時に独身で第7回調査まで回答を得られている男性票または女性票である。  
 2) 「第1回調査時に既婚」の集計対象は、第1回調査時に既婚で第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦の男性票または女性票である。  
 3) 「第1回調査時に既婚」「第1回調査時に独身」には仕事の有無不詳を含む。

図1 性、第1回調査時の独身者の就業形態別にみたこの6年間の結婚・出生の状況



注：「第1回調査時に独身」の集計対象は、第1回調査時に独身で第7回調査まで回答を得られている男性票または女性票である。

## II 第1回調査時の独身者の結婚の状況

### 1 この6年間の結婚の状況

第1回調査時の独身者のうち、この6年間で「結婚した」は、第1回の年齢が25～29歳の階級が最も高い。

第1回の独身者のうち、男はこの1年間で4.6%が結婚し、この6年間で結婚したのは26.0%となった。女はこの1年間で5.5%が結婚し、この6年間では32.5%となった。男女とも、第1回の年齢が25～29歳の階級が結婚した割合が最も高く、男29.6%、女39.0%となっている。(表2、図2)

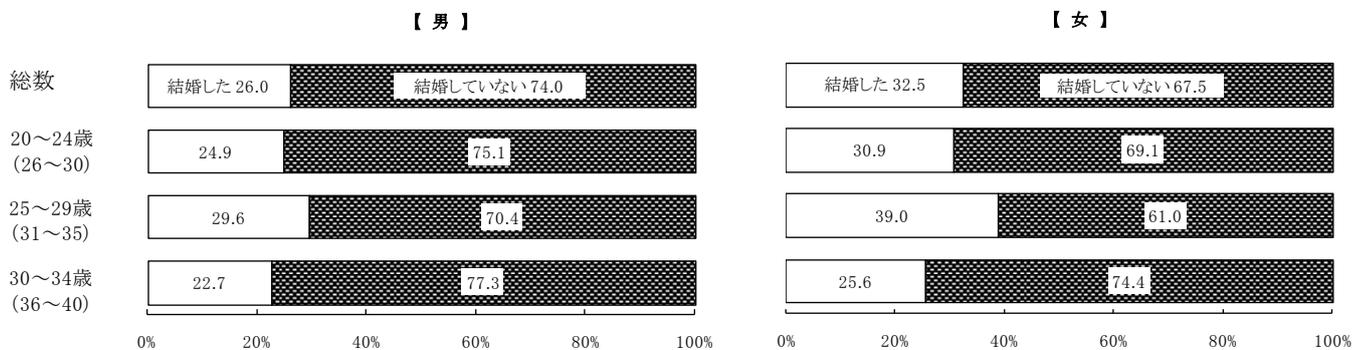
表2 性、年齢階級別にみたこの6年間の結婚の状況

(単位：%)

		第1回調査時の配偶者の有無		この6年間の結婚の状況				
		総数	配偶者あり	配偶者なし	結婚した	結婚していない		
						第6回調査から第7回調査間		
第1回調査時の年齢階級	男	(100.0)	100.0	35.4	63.5	16.5	2.9	47.0
	20～24歳(26～30)	(26.3)	100.0	4.8	94.0	23.4	5.8	70.6
	25～29歳(31～35)	(32.8)	100.0	29.8	68.9	20.4	3.0	48.5
	30～34歳(36～40)	(40.9)	100.0	59.5	39.5	9.0	1.0	30.6
	( )内は第7回調査時							
女		(100.0)	100.0	44.2	54.9	17.9	3.0	37.0
	20～24歳(26～30)	(27.1)	100.0	6.4	92.8	28.7	6.7	64.1
	25～29歳(31～35)	(31.4)	100.0	40.4	58.9	23.0	2.9	35.9
	30～34歳(36～40)	(41.5)	100.0	71.7	27.2	7.0	0.7	20.3

- 注：1) 集計対象は、第1回調査から第7回調査まで回答を得られている者である。  
 2) 「結婚した」には、この6年間に結婚した後離婚した者を含む。  
 3) 第1回調査時の配偶者の有無の総数には、配偶者有無の不詳を含む。  
 4) [ ]内は、第1回調査時に配偶者なしであった者を総数とした6年間の結婚の状況である。  
 5) 6年間で2回以上結婚している場合、最新の結婚の状況について計上している。

図2 独身者のこの6年間の結婚の状況



- 注：1) 集計対象は、第1回調査から第7回調査まで回答を得られている者である。  
 2) 「結婚した」には、この6年間に結婚した後離婚した者を含む。  
 3) 年齢は第1回調査時の年齢である。( )内は第7回調査時の年齢である。  
 4) 6年間で2回以上結婚している場合、最新の結婚の状況について計上している。

## 2 所得額別にみた状況

男女ともに、所得額が高くなるほど、結婚の割合が高くなる傾向がある。

第3回の独身者について、「結婚した」は結婚前調査時の、「結婚していない」は第6回調査時の所得額階級別に、この4年間の結婚の状況をみた。

男女ともに、「400～500万円未満」で、「結婚した」の割合が最も高く、所得額が高くなるほど、結婚の割合が高くなる傾向がある。特に、男では、最も低い「100万円未満」で8.9%、最も高い「400～500万円未満」で26.0%と、17.1ポイントの差がある。(表3、図3)

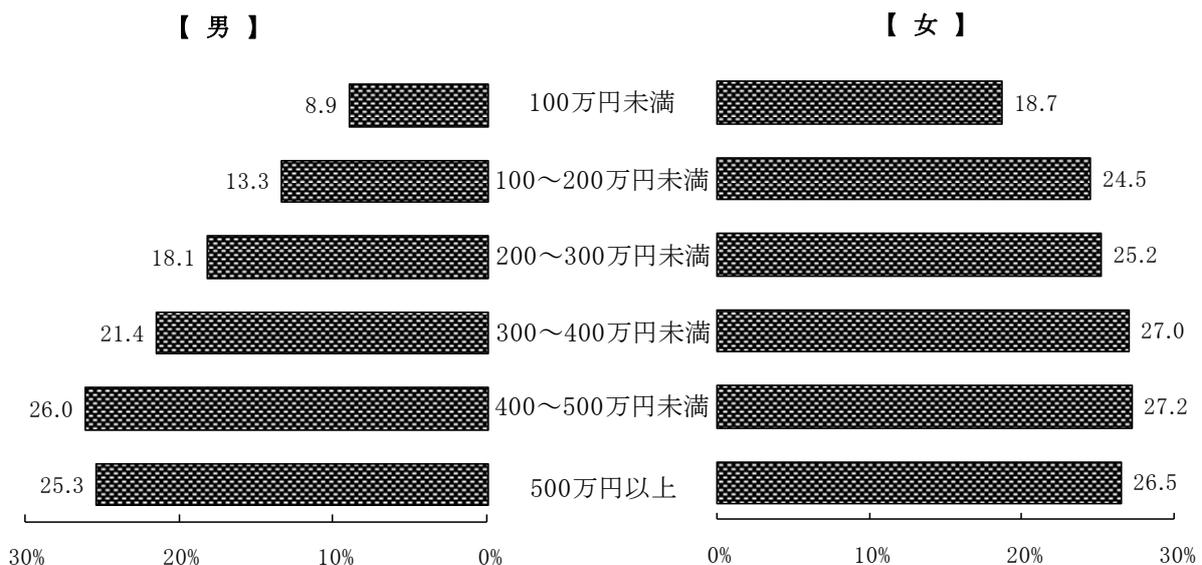
表3 性、所得額階級別にみたこの4年間の結婚の状況

(単位：%)

		男				女			
		総数	結婚した	結婚していない		総数	結婚した	結婚していない	
所得額	総数	(100.0)	100.0	19.4	80.6	(100.0)	100.0	24.4	75.6
	100万円未満	(11.9)	100.0	8.9	91.1	(12.3)	100.0	18.7	81.3
	100～200万円未満	(9.4)	100.0	13.3	86.7	(21.6)	100.0	24.5	75.5
	200～300万円未満	(21.8)	100.0	18.1	81.9	(30.1)	100.0	25.2	74.8
	300～400万円未満	(24.9)	100.0	21.4	78.6	(17.9)	100.0	27.0	73.0
	400～500万円未満	(13.7)	100.0	26.0	74.0	(7.1)	100.0	27.2	72.8
	500万円以上	(9.6)	100.0	25.3	74.7	(3.8)	100.0	26.5	73.5

- 注：1)集計対象は、第3回調査時に独身で第7回調査まで回答を得られている者である。  
 2)所得額は、「結婚した」は結婚前調査時の、「結婚していない」は第6回調査時の状況である。  
 3)「結婚した」には、この4年間に結婚した後離婚した者を含む。  
 4)4年間で2回以上結婚している場合、最新の結婚の状況について計上している。  
 5)所得額の「100万円未満」には所得なしを、総数には所得不詳を含む。

図3 所得額階級別にみたこの4年間に結婚した割合



- 注：1)集計対象は、第3回調査時に独身で第7回調査まで回答を得られている者である。  
 2)所得額は、「結婚した」は結婚前調査時の状況である。  
 3)この4年間に結婚した後離婚した者を含む。  
 4)4年間で2回以上結婚している場合、最新の結婚の状況について計上している。  
 5)所得額の「100万円未満」には所得なしを含む。

### 3 結婚意欲の変化

#### (1) 第1回の結婚意欲とこの6年間の結婚状況

第1回に「結婚したい」と思っていた者のうち、男32.6%、女39.2%がこの6年間に結婚した。

第1回の独身者について第1回の結婚意欲別にこの6年間の結婚状況をみると、第1回に「結婚したい」と思っていた男32.6%、女39.2%が結婚した。(表4)

表4 性、第1回調査時の結婚意欲別にみたこの6年間の結婚の状況

(単位：%)

		男			女				
		総数	結婚した	結婚していない	総数	結婚した	結婚していない		
第1回結婚調査意欲時の	総数	(100.0)	100.0	26.5	73.5	(100.0)	100.0	33.0	67.0
	結婚したい	(64.1)	100.0	32.6	67.4	(68.3)	100.0	39.2	60.8
	どちらともいえない	(27.7)	100.0	16.2	83.8	(22.2)	100.0	22.4	77.6
	結婚したくない	(8.1)	100.0	14.0	86.0	(9.5)	100.0	13.3	86.7

注:1)集計対象は、第1回調査時に独身で第7回調査まで回答を得られている者である。ただし、第1回調査時の結婚意欲が不詳の者を除く。  
また、「結婚していない」は、第7回調査時の結婚意欲が不詳の者を除く。  
2)「結婚したい」は、「絶対したい」「なるべくしたい」と回答した者を、「結婚したくない」は、「あまりしたくない」「絶対したくない」と回答した者を合算している。

#### (2) 独身者のこの6年間の結婚意欲の変化

年齢階級が低いほど、この6年間で結婚意欲が高くなっている。

表4のうち、この6年間に結婚していない者について、年齢階級別にこの6年間の結婚意欲の変化をみると、第1回に「どちらともいえない」または「結婚したくない」と思っていた者のうち、第7回で「結婚したい」と思うようになった者は、男女ともに第1回の年齢が20～24歳の者で最も高くなっている。(表5)

表5 性、年齢階級別にみたこの6年間に結婚していない者の結婚意欲の変化

(単位：%)

		第7回調査時の結婚意欲										
		男				女						
		総数	結婚したい	どちらともいえない	結婚したくない	総数	結婚したい	どちらともいえない	結婚したくない			
第1回調査意欲時の年齢階級、	総数	(100.0)	100.0	65.0	26.2	8.9	(100.0)	100.0	68.8	22.1	9.1	
	結婚したい	(58.8)	100.0	81.9	14.9	3.3	(62.0)	100.0	86.4	11.5	2.2	
	どちらともいえない	(31.6)	100.0	45.3	43.9	10.7	(25.7)	100.0	46.2	44.1	9.8	
	結婚したくない	(9.5)	100.0	26.1	36.7	37.1	(12.3)	100.0	27.2	30.0	42.8	
	20～24歳(26～30)	総数	(100.0)	100.0	68.1	24.5	7.4	(100.0)	100.0	75.9	17.8	6.4
	結婚したい	(58.1)	100.0	82.4	14.4	3.1	(68.3)	100.0	87.2	10.6	2.2	
	どちらともいえない	(31.8)	100.0	51.9	40.1	8.0	(21.0)	100.0	57.4	34.3	8.4	
	結婚したくない	(10.1)	100.0	36.9	33.3	29.7	(10.7)	100.0	39.8	31.3	28.9	
	25～29歳(31～35)	総数	(100.0)	100.0	63.9	27.0	9.0	(100.0)	100.0	69.9	21.9	8.2
	結婚したい	(60.2)	100.0	80.9	15.4	3.7	(62.0)	100.0	88.1	9.6	2.3	
	どちらともいえない	(30.9)	100.0	42.8	46.9	10.3	(27.0)	100.0	45.2	45.7	9.1	
	結婚したくない	(8.9)	100.0	22.6	36.9	40.5	(11.0)	100.0	28.2	32.9	38.8	
	30～34歳(36～40)	総数	(100.0)	100.0	61.7	27.5	10.8	(100.0)	100.0	52.7	31.3	15.9
結婚したい	(58.1)	100.0	82.4	14.8	2.8	(49.1)	100.0	81.2	17.1	1.7		
どちらともいえない	(32.4)	100.0	38.8	46.0	15.2	(33.7)	100.0	33.0	54.8	12.2		
結婚したくない	(9.4)	100.0	13.0	42.0	44.9	(17.1)	100.0	10.0	26.0	64.0		

注:1)集計対象は、第1回調査時に独身で第7回調査まで回答を得られ、かつ第7回まで結婚していない者である。  
ただし、第1回調査時の結婚意欲が不詳の者、及び第7回調査時の結婚意欲が不詳の者を除く。  
2)「結婚したい」は、「絶対したい」「なるべくしたい」と回答した者を、「結婚したくない」は、「あまりしたくない」「絶対したくない」と回答した者を合算している。  
3)年齢は、第1回調査時の年齢である。( )内は第7回調査時の年齢である。

### Ⅲ 夫婦における子どもの出生の状況

#### 1 この6年間の出生の状況

この6年間に、44.7%の夫婦に子どもが生まれた。

この1年間に、第1回からの夫婦の3.5%、第2回からの夫婦の21.7%、第3回からの夫婦の18.2%、第4回からの夫婦の22.7%、第5回からの夫婦の28.3%、第6回からの夫婦の27.5%に子どもが生まれ、この6年間では、それぞれ37.9%、80.0%、75.1%、73.5%、59.1%、27.5%の夫婦に1人以上の子どもが生まれた。(表6、図4)

表6 妻の年齢階級別にみたこの6年間の出生の状況

		総数	この6年間に出生あり						この6年間に出生なし		
			総数	第6回調査から第7回調査間に出生				総数	すでに子どもあり	子どもなし	
				総数	第1子	第2子	第3子以降				
第7回調査時(再掲)の妻の年齢階級時点	総数	(100.0)	100.0	44.7	9.1	4.1	3.3	1.6	55.3	41.5	13.7
	21～25歳	(0.5)	100.0	66.7	38.9	22.2	11.1	5.6	33.3	11.1	22.2
	26～30歳	(13.5)	100.0	62.9	22.9	12.2	8.6	2.2	37.1	10.8	26.3
	31～35歳	(31.0)	100.0	61.0	11.9	5.0	4.7	2.2	39.0	24.1	14.9
	36歳以上	(55.1)	100.0	30.9	3.8	1.4	1.2	1.2	69.1	59.1	9.9
	(再掲)第1回調査からの夫婦	(72.4)	100.0	37.9	3.5	0.5	1.1	1.9	62.1	55.1	7.0
	第2回調査	(4.8)	100.0	80.0	21.7	5.0	15.6	1.1	20.0	3.9	16.1
第3回調査	(5.5)	100.0	75.1	18.2	5.3	10.5	2.4	24.9	5.3	19.6	
第4回調査	(6.3)	100.0	73.5	22.7	9.2	12.2	1.3	26.5	5.9	20.6	
第5回調査	(5.2)	100.0	59.1	28.3	20.7	7.1	0.5	40.9	5.1	35.9	
第6回調査	(5.8)	100.0	27.5	27.5	26.6	0.9	-	72.5	9.2	63.3	

注：1) 集計対象は、①または②に該当する夫婦である。

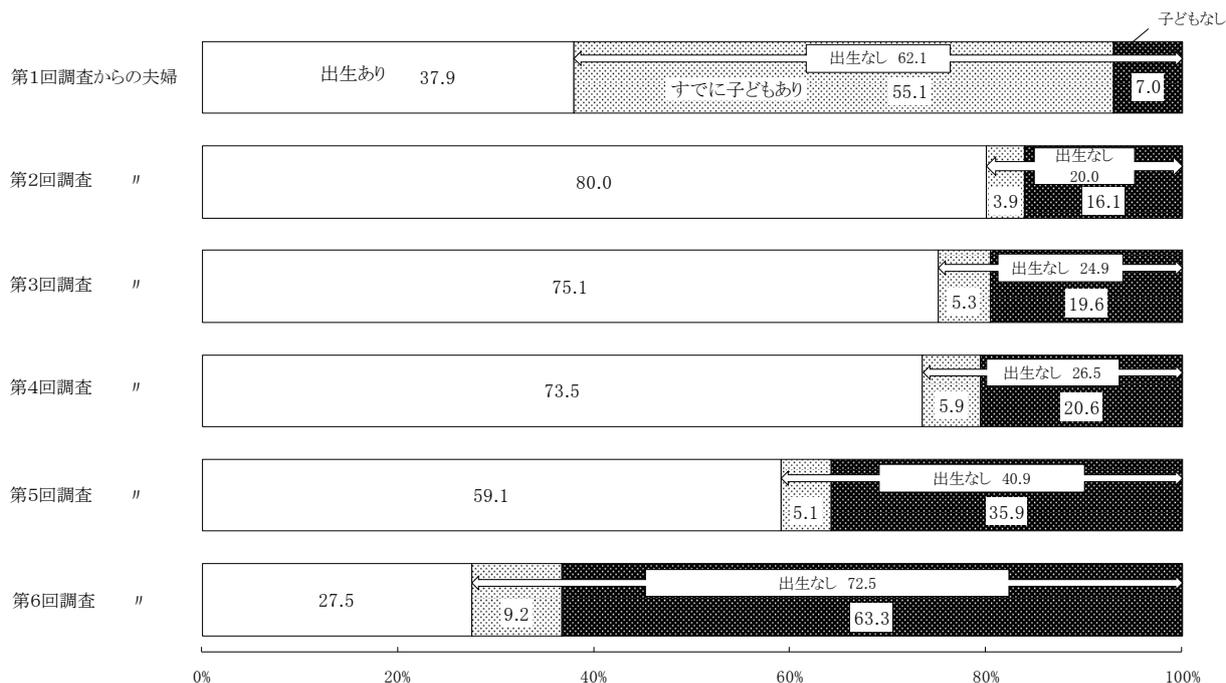
① 第1回調査から第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦

② 第1回調査時に独身で第6回調査までの間に結婚し、結婚後第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦

2) 「第1回調査からの夫婦」には、調査開始以前からの夫婦を含む。

3) 「この6年間に出生なし」で「すでに子どもあり」は、第1回調査時に子どもがいた夫婦と、第2回調査以降に夫婦として回答する以前に結婚、出生があった夫婦を計上している。

図4 この6年間の出生の状況



注：1) 集計対象は、①または②に該当する夫婦である。

① 第1回調査から第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦

② 第1回調査時に独身で第6回調査までの間に結婚し、結婚後第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦

2) 「第1回調査からの夫婦」には、調査開始以前からの夫婦を含む。

3) 「この6年間に出生なし」で「すでに子どもあり」は、第1回調査時に子どもがいた夫婦と、第2回調査以降に夫婦として回答する以前に結婚、出生があった夫婦を計上している。

## 2 夫の休日の家事・育児時間別にみた状況

子どもがいる夫婦は、夫の休日の家事・育児時間が長くなるほど、第2子以降の生まれる割合が高くなる傾向がある。

夫婦について、「出生あり」は出生前調査時の、「出生なし」は第6回調査時の夫の休日の家事・育児時間別に、この6年間の出生の状況をみた。

子ども1人の夫婦では、「家事・育児時間なし」で32.4%、「6時間以上～8時間未満」で82.0%に第2子が生まれている。また、子どもがいる夫婦全体でみると、「家事・育児時間なし」で14.7%、「6時間以上～8時間未満」で54.4%に第2子以降が生まれており、家事・育児時間が長いほど子どもが生まれている割合が高くなる傾向がある。(表7、図5)

表7 夫の休日の家事・育児時間別にみたこの6年間の出生の状況

		総数			子どもなしの夫婦			子ども1人の夫婦			子ども2人以上の夫婦			
		総数	出生あり	出生なし	総数	第1子出生あり	出生なし	総数	第2子出生あり	出生なし	総数	第3子以降出生あり	出生なし	
夫の休日の家事・育児時間	総数	(100.0)	100.0	41.8	58.2	100.0	47.6	52.4	100.0	65.4	34.6	100.0	21.8	78.2
	家事・育児時間なし	(8.2)	100.0	36.1	63.9	100.0	51.2	48.8	100.0	32.4	67.6	100.0	6.3	93.7
	2時間未満	(30.8)	100.0	35.9	64.1	100.0	47.2	52.8	100.0	45.8	54.2	100.0	11.3	88.7
	2～4時間未満	(21.2)	100.0	36.5	63.5	100.0	43.4	56.6	100.0	61.3	38.7	100.0	17.9	82.1
	4～6時間未満	(12.7)	100.0	49.9	50.1	100.0	59.1	40.9	100.0	74.0	26.0	100.0	30.9	69.1
	6～8時間未満	(5.5)	100.0	54.0	46.0	100.0	40.0	60.0	100.0	82.0	18.0	100.0	28.0	72.0
	8時間以上	(18.3)	100.0	51.5	48.5	100.0	100.0	-	100.0	74.2	25.8	100.0	32.5	67.5

注:1)集計対象は、①または②に該当する同居夫婦である。ただし、妻の「出生前データ」が得られていない夫婦は除く。

①第1回調査から第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦

②第1回調査時に独身で第6回調査までの間に結婚し、結婚後第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦

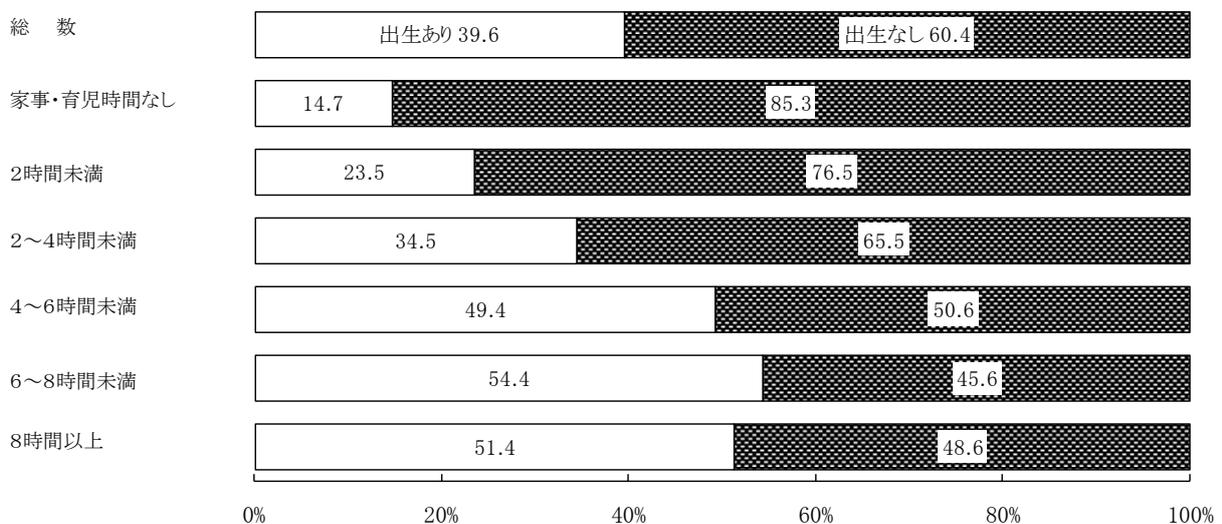
2)家事・育児時間は、「出生あり」は出生前調査時の、「出生なし」は第6回調査時の状況である。

3)「子どもなしの夫婦」「子ども1人の夫婦」「子ども2人以上の夫婦」は、「出生あり」は出生前調査時の、「出生なし」は第6回調査時の状況である。

4)6年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

5)総数には、家事・育児時間不詳を含む。

図5 夫の休日の家事・育児時間別にみたこの6年間の第2子以降の出生の状況



注:1)集計対象は、①または②に該当する同居夫婦である。ただし、妻の「出生前データ」が得られていない夫婦は除く。

①第1回調査から第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦

②第1回調査時に独身で第6回調査までの間に結婚し、結婚後第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦

2)家事・育児時間は、「出生あり」は出生前調査時の、「出生なし」は第6回調査時の状況である。

3)6年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

4)総数には、家事・育児時間不詳を含む。

### 3 子どもをもつ意欲の変化

#### (1) この6年間の子どもをもつ意欲の変化

この6年間に第1子出生の夫婦は、第7回調査では、夫64.4%、妻63.7%が、子どもが「ほしい」と考えている。

第1回からの夫婦について、この6年間の出生の有無、出生順位、子ども数別に第1回と第7回の夫、妻の子どもをもつ意欲をみた。この6年間に出生ありの夫婦は、第1子出生の場合、夫は、子どもが「ほしい」と考えている者の割合が、第1回80.7%、第7回64.4%、妻は、第1回80.7%、第7回63.7%となっている。第2子出生の場合は、夫は、第1回84.8%から第7回18.3%、妻は第1回82.4%から第7回16.5%と、第1子出生の場合より大きく減少している。

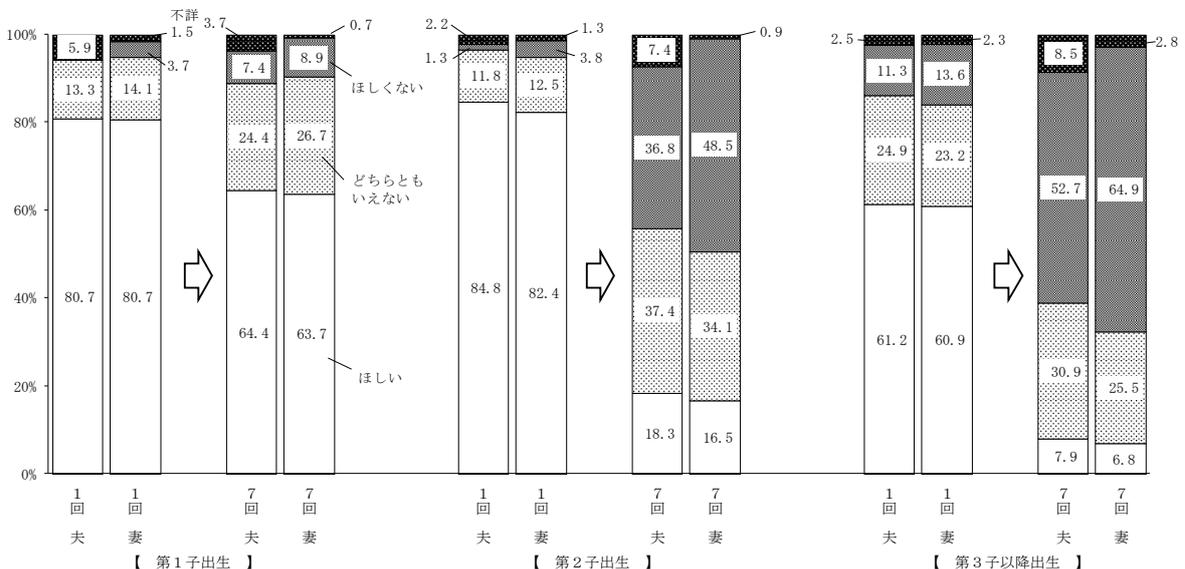
この6年間に出生なしの夫婦のうち子ども1人の夫婦は、「ほしい」と考えている者の割合が、夫は57.1%から35.4%へ、妻は50.2%から27.0%へ減少しており、「ほしくない」と考えている者の割合が、夫は11.0%から26.6%へ、妻は21.0%から41.1%へと増加している。(表8、図6)

表8 この6年間の出生の状況、出生順位、子ども数別にみた、第1回調査時及び第7回調査時の子どもをもつ意欲

		第1回調査時の子どもをもつ意欲					第7回調査時の子どもをもつ意欲					
		総数	ほしい	どちらともいえない	ほしくない	不詳	総数	ほしい	どちらともいえない	ほしくない	不詳	
この6年間に出生あり	出生順位	(100.0)										
	第1子出生 夫	(13.0)	100.0	80.7	13.3	-	5.9	100.0	64.4	24.4	7.4	3.7
	第1子出生 妻	(13.0)	100.0	80.7	14.1	3.7	1.5	100.0	63.7	26.7	8.9	0.7
	第2子出生 夫	(53.0)	100.0	84.8	11.8	1.3	2.2	100.0	18.3	37.4	36.8	7.4
第2子出生 妻	(53.0)	100.0	82.4	12.5	3.8	1.3	100.0	16.5	34.1	48.5	0.9	
第3子以降出生 夫	(34.0)	100.0	61.2	24.9	11.3	2.5	100.0	7.9	30.9	52.7	8.5	
第3子以降出生 妻	(34.0)	100.0	60.9	23.2	13.6	2.3	100.0	6.8	25.5	64.9	2.8	
この6年間に出生なし	子ども数	(100.0)										
	子どもなし 夫	(11.2)	100.0	64.9	24.6	6.8	3.7	100.0	47.6	31.4	12.0	8.9
	子どもなし 妻	(11.2)	100.0	60.2	25.1	12.0	2.6	100.0	39.8	34.0	24.1	2.1
	1人 夫	(18.8)	100.0	57.1	30.7	11.0	1.3	100.0	35.4	32.3	26.6	5.6
1人 妻	(18.8)	100.0	50.2	27.3	21.0	1.6	100.0	27.0	31.7	41.1	0.3	
2人以上 夫	(70.0)	100.0	22.2	39.3	35.9	2.7	100.0	12.6	27.1	52.6	7.6	
2人以上 妻	(70.0)	100.0	19.9	33.4	44.7	2.0	100.0	8.6	21.9	68.1	1.4	

注:1)集計対象は、第1回調査から第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦である。  
 2)「ほしい」には「絶対欲しい」「欲しい」と回答した者を、「ほしくない」には「あまり欲しくない」「絶対欲しくない」と回答した者を合算している。  
 3)出生順位は、6年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

図6 この6年間に出生ありの夫婦の出生順位別にみた第1回調査時及び第7回調査時の子どもをもつ意欲



注:1)集計対象は、第1回調査から第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦である。  
 2)「ほしい」には「絶対欲しい」「欲しい」と回答した者を、「ほしくない」には「あまり欲しくない」「絶対欲しくない」と回答した者を合算している。  
 3)出生順位は、6年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

## (2) 夫婦の子どもをもつ意欲と出生の状況

夫、妻ともに子どもがほしいと考えていた夫婦の68.3%に子どもが生まれた。

第1回からの夫婦について、第1回調査時の夫及び妻の子どもをもつ意欲別に、この6年間の出生の状況をみると、夫、妻ともに「ほしい」では、68.3%、夫、妻ともに「ほしくない」では5.5%の夫婦に子どもが生まれている。

また、夫婦の意欲が「ほしい」「どちらともいえない」の組み合わせでは、いずれも約4割の夫婦に子どもが生まれている。夫婦の意欲が「ほしい」「ほしくない」の組み合わせでは、夫が「ほしい」では24.1%、妻が「ほしい」では11.6%となっており、夫が「ほしい」と望んでいるほうが子どもが生まれている割合が高い。(表9)

表9 第1回調査時の夫及び妻の子どもをもつ意欲別にみた  
この6年間の出生の状況

(単位: %)

		第1回調査時の妻の子どもをもつ意欲		
		ほしい	どちらともいえない	ほしくない
第1回調査時の 夫の子どもをもつ意欲、 この6年間の出生の状況	ほしい	100.0 (35.7)	100.0 (8.2)	100.0 (5.1)
	出生あり	68.3	35.8	24.1
	出生なし	31.7	64.2	75.9
	どちらともいえない	100.0 (7.9)	100.0 (12.1)	100.0 (8.1)
	出生あり	39.8	19.3	8.1
	出生なし	60.2	80.7	91.9
	ほしくない	100.0 (2.5)	100.0 (4.8)	100.0 (11.4)
	出生あり	11.6	15.3	5.5
	出生なし	88.4	84.7	94.5

注: 1) 集計対象は、第1回調査から第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦である。

2) 「ほしい」は「絶対欲しい」「欲しい」と回答した者を、「ほしくない」は、「あまり欲しくない」「絶対欲しくない」と回答した者を合算している。

3) ( )内は夫、妻の子どもをもつ意欲の組み合わせごとの、総数に対する割合である。

## IV 就業の状況

### 1 就業の変化

第1回調査時に正規の仕事をしている者のうち、男性82.9%、女性62.3%が第7回調査時も正規の仕事をしている。

第1回が「仕事あり」の者について、就業形態の正規・非正規別でみると、第1回と第7回が「正規」の者の割合は、男は82.9%、女は62.3%となっている。(表10)

第1回に非正規だった者の第7回就業形態をみると、第7回に「正規」となっているのは、男41.0%、女15.7%となっており、男女とも年齢が低いほど正規になっている割合が高くなっている(図7)。

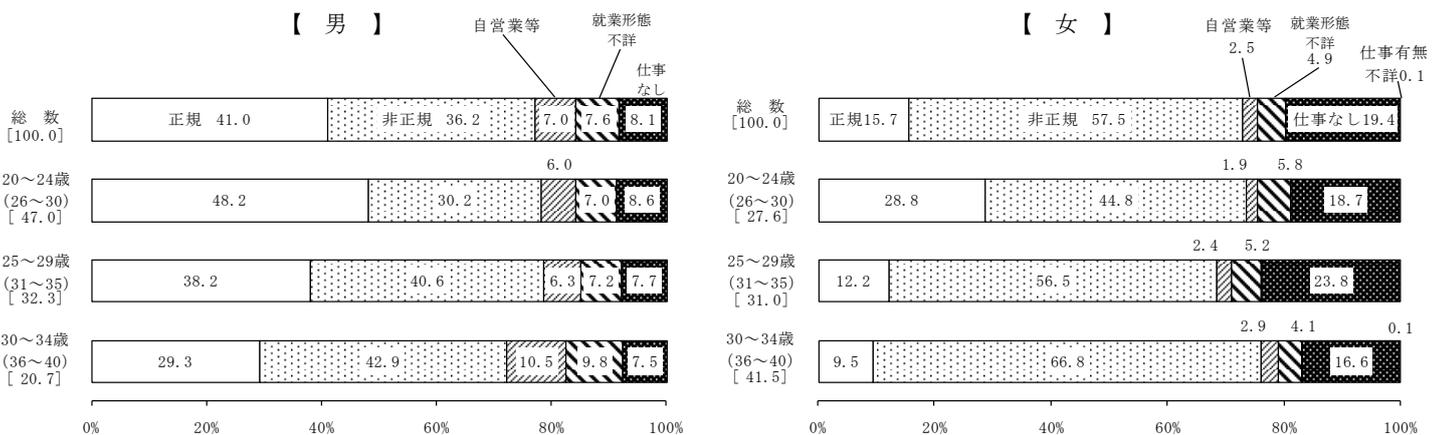
表10 性、第1回調査時の仕事の有無別にみた第7回調査時の仕事の有無

(単位：%)

		第7回調査時の仕事の有無、(再掲) 正規・非正規					
		総数	仕事あり	(再掲)		仕事なし	
				正規	非正規		
第1回調査時 正規・非正規 の仕事の有無、 (再掲)	男	(100.0)	100.0	94.1	64.8	9.9	5.8
	仕事あり	(88.0)	100.0	97.0	68.4	8.7	2.9
	(再掲) 正規	(60.2)	100.0	98.0	82.9	4.4	2.0
	(再掲) 非正規	(10.7)	100.0	91.9	41.0	36.2	8.1
	仕事なし	(9.2)	100.0	71.7	37.4	20.5	28.1
	女	(100.0)	100.0	72.6	29.8	32.9	27.3
	仕事あり	(67.2)	100.0	82.4	39.9	31.9	17.5
	(再掲) 正規	(33.7)	100.0	82.3	62.3	14.5	17.6
(再掲) 非正規	(25.4)	100.0	80.6	15.7	57.5	19.4	
仕事なし	(31.3)	100.0	51.8	8.3	35.4	48.1	

注：1) 集計対象は、第1回調査から第7回調査まで回答を得られている者である。ただし、第2回調査時に主に通学している者を除く。  
2) 男、女には、仕事の有無不詳を含む。

図7 性、年齢階級別にみた第1回調査時に非正規だった者の第7回調査時の就業形態の変化



注：1) 集計対象は、第1回調査から第7回調査まで回答を得られている者である。ただし、第2回調査時に主に通学している者を除く。  
2) 年齢は、第1回調査時の年齢である。( )内は第7回調査時の年齢である。  
3) 「自営業等」は、会社などの役員・自営業主、自家営業の手伝い、自宅での賃仕事(内職)を合算したものである。

## 2 結婚の状況別にみた就業状況の変化

女性は 49.4%が結婚後も同一就業を継続し、28.1%が離職をしている。男性は 78.8%が結婚後も同一就業を継続している。

第 1 回の独身者について、この 6 年間の結婚の状況別に、「結婚した」は結婚前後の調査時の、「結婚していない」はこの 1 年間の就業状況の変化をみた。

結婚した場合の「同一就業継続」は、男 78.8%、女 49.4%、「離職」は、男 1.2%、女 28.1%、結婚していない場合の「同一就業継続」は、男 72.9%、女 71.9%、「離職」は、男 2.9%、女 3.2%となっている。(表 1 1、図 8)

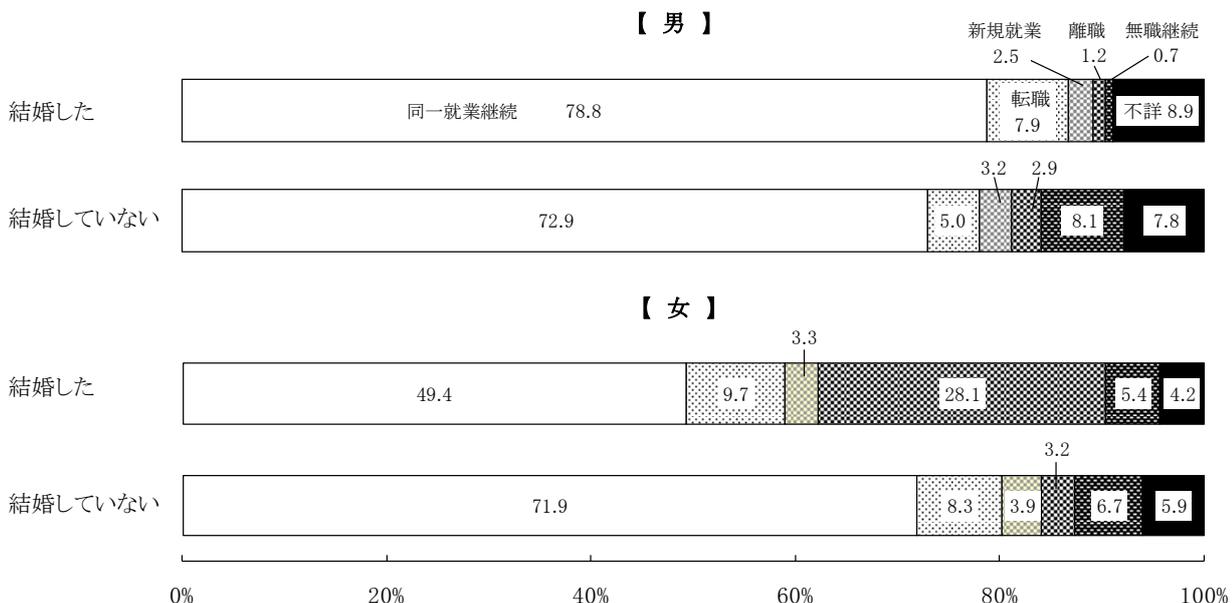
表 1 1 性、この 6 年間の結婚の状況、年齢階級別にみた就業状況の変化

(単位：%)

		総数	同一就業 継続	再掲		転職	再掲		新規 就業	離職	無職 継続	不詳	
				(再掲) 正規	(再掲) 非正規		(再掲) 正規から 非正規	(再掲) 非正規 から正規					
男	結婚した	(100.0)	100.0	78.8	65.6	4.4	7.9	0.7	1.7	2.5	1.2	0.7	8.9
	21～25歳	(12.6)	100.0	63.1	53.1	3.1	10.8	0.8	0.8	7.7	3.1	1.5	13.8
	26～30歳	(47.6)	100.0	76.2	64.6	5.3	9.1	0.8	2.2	2.4	0.8	0.6	10.8
	31～35歳	(30.9)	100.0	85.9	71.5	3.8	6.0	0.6	1.6	1.3	0.9	0.6	5.3
	36～40歳	(9.0)	100.0	90.3	67.7	4.3	4.3	-	1.1	-	1.1	-	4.3
	結婚していない	(100.0)	100.0	72.9	52.9	12.5	5.0	0.7	0.9	3.2	2.9	8.1	7.8
	26～30歳	(39.5)	100.0	70.5	50.6	14.2	6.0	0.9	1.5	4.0	3.7	7.9	7.9
	31～35歳	(33.9)	100.0	74.7	54.5	12.8	4.9	0.8	0.7	2.6	2.2	7.7	8.0
36～40歳	(26.6)	100.0	74.1	54.3	9.5	3.8	0.5	0.3	2.7	2.8	9.0	7.6	
女	結婚した	(100.0)	100.0	49.4	35.8	11.7	9.7	3.4	0.8	3.3	28.1	5.4	4.2
	21～25歳	(15.1)	100.0	40.1	32.3	7.8	9.4	3.1	0.5	2.6	37.0	8.3	2.6
	26～30歳	(52.7)	100.0	49.6	38.5	9.4	10.1	3.7	0.7	3.7	27.6	4.9	4.0
	31～35歳	(26.6)	100.0	52.7	32.2	17.2	9.8	3.3	1.2	3.3	24.3	5.3	4.7
	36～40歳	(5.7)	100.0	56.9	37.5	18.1	5.6	1.4	-	1.4	26.4	2.8	6.9
	結婚していない	(100.0)	100.0	71.9	45.1	23.8	8.3	1.4	0.9	3.9	3.2	6.7	5.9
	26～30歳	(46.8)	100.0	69.7	44.7	23.1	9.5	1.9	0.9	5.3	4.0	5.3	6.1
	31～35歳	(30.5)	100.0	74.5	45.1	25.6	7.5	0.9	1.2	2.2	2.5	7.8	5.5
36～40歳	(22.7)	100.0	73.0	45.8	22.8	7.0	1.0	0.7	3.5	2.3	8.0	6.2	

注：1) 集計対象は、第 1 回調査時に独身で第 7 回調査まで回答を得られている者である。ただし、「結婚した」には、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者を除く。  
2) 年齢は、「結婚した」は結婚後調査時の、「結婚していない」は第 7 回調査時の年齢である。  
3) 就業状況の変化は、「結婚した」は結婚前後調査時の、「結婚していない」は第 6 回調査から第 7 回調査にかけての就業状況の変化である。  
4) 6 年間で 2 回以上結婚している場合、最新の結婚の状況について計上している。

図 8 この 6 年間の結婚の状況別にみた就業状況の変化



注：1) 集計対象は、第 1 回調査時に独身で第 7 回調査まで回答を得られている者である。ただし、「結婚した」には、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者を除く。  
2) 就業状況の変化は、「結婚した」は結婚前後調査時の、「結婚していない」は第 6 回調査から第 7 回調査にかけての就業状況の変化である。  
3) 6 年間で 2 回以上結婚している場合、最新の結婚の状況について計上している。

### 3 仕事をしていた女性の結婚後の就業継続の有無

女性は、仕事が正規の場合 62.3%、非正規の場合 42.5%が結婚後も同一就業を継続している。

第1回の独身者について、この6年間に結婚し、結婚前に仕事をしていた女性について結婚後の就業継続の有無をみると、「同一就業継続」は54.2%、「転職」は10.6%、「離職」は30.8%となっている。

また、就業形態別にみると、「正規」では62.3%が「同一就業継続」となっている。「非正規」では「同一就業継続」が42.5%、「離職」が41.4%となっているが、21～25歳では、半数以上が離職している。(表12、図9)

表12 年齢階級別にみた結婚した女性の就業継続の有無

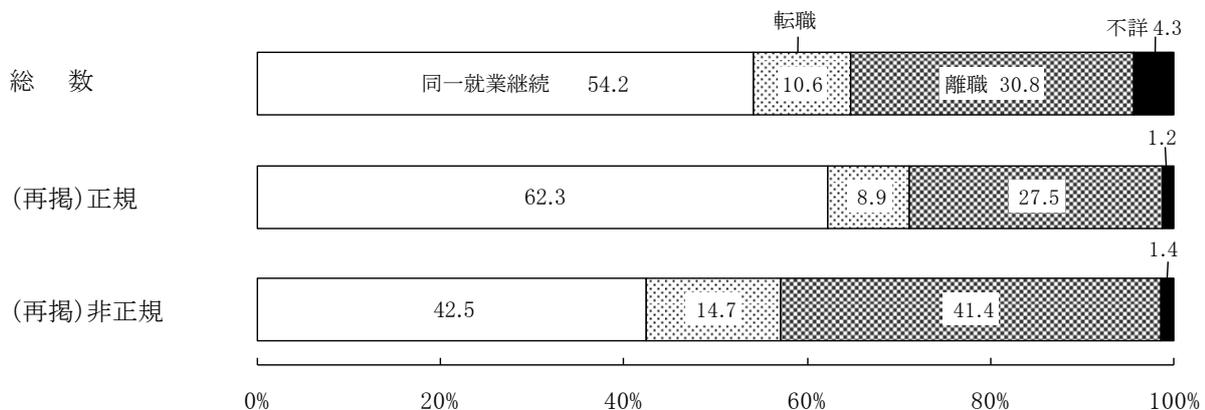
		(単位：%)							
		総数	同一就業継続	転職			離職	不詳	
				総数	(再掲) 正規へ	(再掲) 非正規へ			
結婚(再掲調査時)の結婚前年調査階級の正規・非正規	総数	(100.0)	100.0	54.2	10.6	2.3	7.4	30.8	4.3
	21～25歳	(14.7)	100.0	45.3	10.6	2.9	7.1	41.8	2.4
	26～30歳	(52.8)	100.0	54.3	11.1	2.1	8.0	30.3	4.3
	31～35歳	(26.7)	100.0	57.6	10.7	2.9	7.4	26.5	5.2
	36～40歳	(5.9)	100.0	60.3	5.9	-	2.9	27.9	5.9
	(再掲) 正規	(100.0)	100.0	62.3	8.9	1.9	5.9	27.5	1.2
	21～25歳	(15.4)	100.0	54.5	9.8	3.6	5.4	35.7	-
	26～30歳	(54.7)	100.0	64.6	9.0	1.5	6.3	25.1	1.3
	31～35歳	(23.5)	100.0	63.2	9.4	2.3	6.4	25.7	1.8
	36～40歳	(6.3)	100.0	58.7	4.3	-	2.2	34.8	2.2
	(再掲) 非正規	(100.0)	100.0	42.5	14.7	2.8	11.3	41.4	1.4
	21～25歳	(14.7)	100.0	28.8	13.5	1.9	11.5	57.7	-
	26～30歳	(50.4)	100.0	36.0	15.7	2.8	12.4	46.6	1.7
	31～35歳	(30.3)	100.0	54.2	15.0	3.7	11.2	29.0	1.9
	36～40歳	(4.5)	100.0	81.3	6.3	-	-	12.5	-

注：1) 集計対象は、第1回調査時に独身で第7回調査まで回答を得られ、この6年間に結婚し、結婚前調査時に仕事ありの女性である。ただし、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者を除く。

2) 「正規」「非正規」は、結婚前調査時の状況である。

3) 6年間で2回以上結婚している場合、最新の結婚の状況について計上している。

図9 結婚した女性の就業継続の有無



注：1) 集計対象は、第1回調査時に独身で第7回調査まで回答を得られ、この6年間に結婚し、結婚前調査時に仕事ありの女性である。ただし、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者を除く。

2) 「正規」「非正規」は、結婚前調査時の状況である。

3) 6年間で2回以上結婚している場合、最新の結婚の状況について計上している。

#### 4 出生の状況別にみた仕事をしていた妻の就業継続の有無

##### (1) 出生の有無、出生順位、就業形態別にみた状況

第1子出産のときに52.9%の妻が離職しており、就業形態で見ると、正規36.4%、非正規75.0%となっている。夫婦のうち、「出生あり」は出産前調査時に、「出生なし」は第6回調査時に仕事をしていた妻について、この6年間の出生の状況別に、出産後の就業継続の有無をみた。

出産後において「同一就業継続」であった割合は、「出生あり」では51.2%となっていて、出生順位別にみると、「第1子」では41.2%、「第2子」では60.3%、「第3子以降」では50.3%となっている。

また、第1子出産の妻をみると、「同一就業継続」41.2%、「離職」52.9%となっており、そのうち正規では「同一就業継続」59.6%、「離職」36.4%、非正規では「同一就業継続」18.2%、「離職」75.0%となっている。(表13、図10)

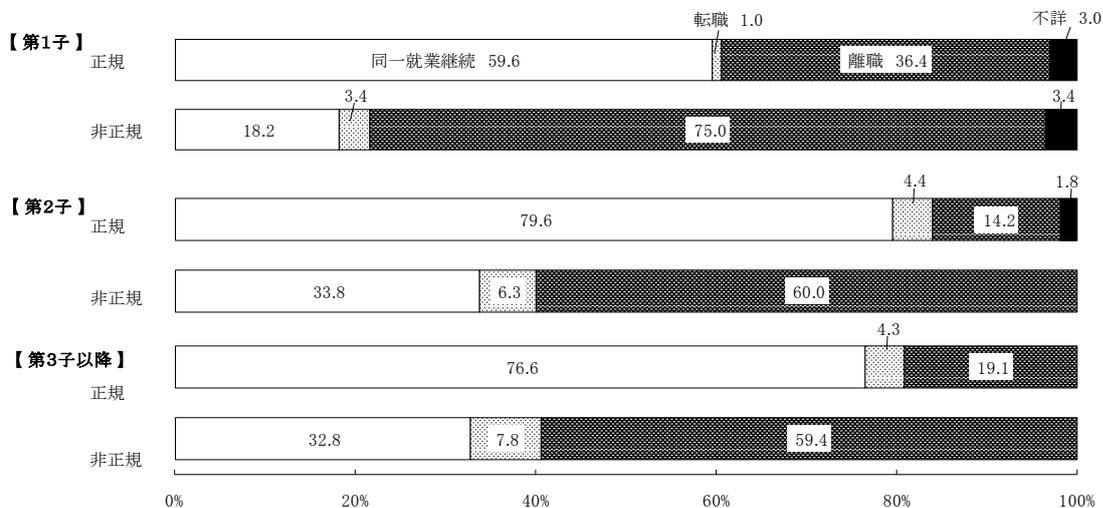
表13 出生の有無、出生順位、就業形態別にみた妻の就業継続の有無

(単位：%)

		総数	同一就業継続	転職	離職	不詳	
出生の有無、 出生順位、 正規・非正規	出生あり	(100.0)	100.0	51.2	4.6	40.6	3.6
	(再掲) 正規	(44.0)	100.0	71.4	3.1	23.6	1.9
	(再掲) 非正規	(39.5)	100.0	27.6	5.6	65.5	1.3
	第1子	(34.7)	100.0	41.2	2.0	52.9	3.9
	(再掲) 正規	(16.8)	100.0	59.6	1.0	36.4	3.0
	(再掲) 非正規	(15.0)	100.0	18.2	3.4	75.0	3.4
	第2子	(40.6)	100.0	60.3	5.4	30.5	3.8
	(再掲) 正規	(19.2)	100.0	79.6	4.4	14.2	1.8
	(再掲) 非正規	(13.6)	100.0	33.8	6.3	60.0	-
	第3子以降	(24.7)	100.0	50.3	6.9	40.0	2.8
	(再掲) 正規	(8.0)	100.0	76.6	4.3	19.1	-
	(再掲) 非正規	(10.9)	100.0	32.8	7.8	59.4	-
	出生なし	(100.0)	100.0	75.3	10.4	7.9	6.4
	(再掲) 正規	(25.4)	100.0	88.5	3.9	5.2	2.4
(再掲) 非正規	(59.0)	100.0	76.3	13.7	8.0	2.0	

注：1) 集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当する夫婦である。  
 ①第1回調査から第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦  
 ②第1回調査時に独身で第6回調査までの間に結婚し、結婚後第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦  
 ③「出生あり」は出産前調査時に、「出生なし」は第6回調査時に妻が仕事ありであった夫婦  
 2) 「正規」「非正規」は、「出生あり」は出産前調査時の、「出生なし」は第6回調査時の状況である。  
 3) 6年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

図10 出生順位、就業形態別にみた出生のあった妻の就業継続の有無



注：1) 集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当する夫婦である。  
 ①第1回調査から第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦  
 ②第1回調査時に独身で第6回調査までの間に結婚し、結婚後第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦  
 ③出産前調査時に、妻が仕事ありであった夫婦  
 2) 「正規」「非正規」は、出産前調査時の状況である。  
 3) 6年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

(2) 妻の職場における育児休業制度の有無別にみた状況

仕事が正規で育児休業制度を利用しやすい雰囲気がある場合 85.8%が出産後も同一就業を継続している。夫婦のうち、出産前に妻が会社等に勤めていて、この5年間に子どもが生まれた夫婦について、育児休業制度の有無別に、出産後における妻の就業継続の有無をみた。

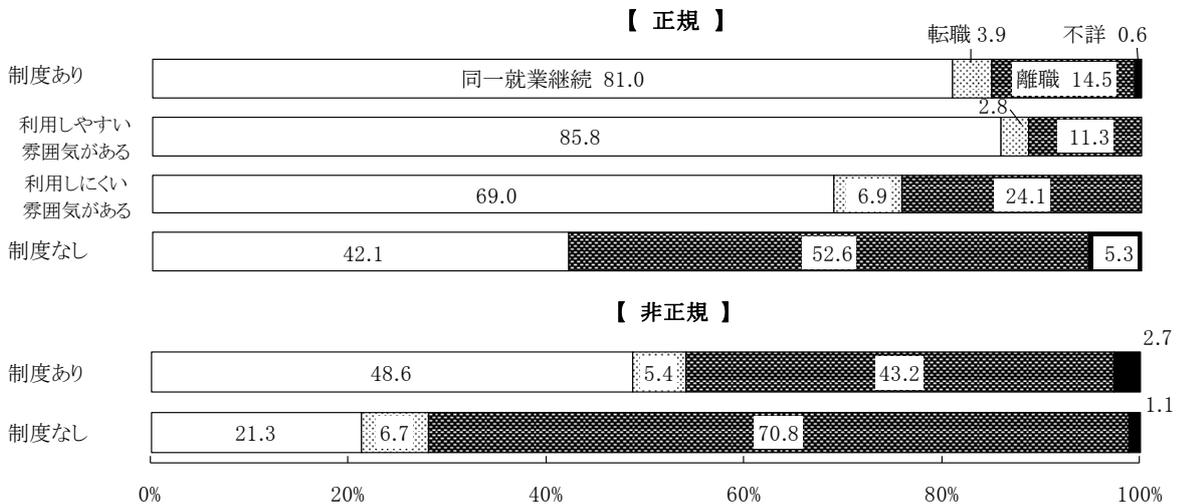
「同一就業継続」の割合を就業形態別にみると、「正規」で「制度あり」では81.0%、「非正規」で「制度あり」では48.6%となっている。また、「正規」で「制度あり」のうち「利用しやすい雰囲気がある」では85.8%、「利用しにくい雰囲気がある」では69.0%となっている。(表14、図11)

表14 妻の就業形態で利用可能な育児休業制度の有無別にみた就業継続の有無

		(単位：%)					
		総数	同一就業継続	転職	離職	不詳	
出産前調査時の妻の有無、(再掲)で利用可能な非正規	総数	(100.0)	100.0	52.1	4.6	42.1	1.2
	制度あり	(52.8)	100.0	75.5	4.2	19.4	0.9
	利用しやすい雰囲気がある	(30.6)	100.0	81.6	3.2	15.2	-
	利用しにくい雰囲気がある	(8.8)	100.0	63.9	8.3	27.8	-
	どちらともいえない	(11.5)	100.0	68.1	2.1	25.5	4.3
	制度なし	(26.4)	100.0	25.0	5.6	67.6	1.9
	制度があるかないかわからない	(17.6)	100.0	27.8	2.8	68.1	1.4
	(再掲) 正規	(100.0)	100.0	73.5	3.7	21.4	1.4
	制度あり	(83.3)	100.0	81.0	3.9	14.5	0.6
	利用しやすい雰囲気がある	(49.3)	100.0	85.8	2.8	11.3	-
	利用しにくい雰囲気がある	(13.5)	100.0	69.0	6.9	24.1	-
	どちらともいえない	(18.1)	100.0	76.9	2.6	17.9	2.6
	制度なし	(8.8)	100.0	42.1	-	52.6	5.3
	制度があるかないかわからない	(7.0)	100.0	33.3	-	60.0	6.7
	(再掲) 非正規	(100.0)	100.0	28.4	5.7	64.9	1.0
制度あり	(19.1)	100.0	48.6	5.4	43.2	2.7	
利用しやすい雰囲気がある	(9.8)	100.0	57.9	5.3	36.8	-	
利用しにくい雰囲気がある	(3.6)	100.0	42.9	14.3	42.9	-	
どちらともいえない	(4.1)	100.0	25.0	-	62.5	12.5	
制度なし	(45.9)	100.0	21.3	6.7	70.8	1.1	
制度があるかないかわからない	(29.4)	100.0	26.3	3.5	70.2	-	

注：1)集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当するこの5年間に子どもが生まれた夫婦である。  
 ①第1回調査から第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦  
 ②第1回調査時に独身で第6回調査までの間に結婚し、結婚後第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦  
 ③出産前調査時に妻が会社等に勤めていて、育児休業制度の有無のデータが得られている夫婦  
 2)「正規」「非正規」は、出産前調査時の状況である。  
 3)総数には、育児休業制度の有無不詳を含む。

図11 妻の就業形態で利用可能な育児休業制度の有無別にみた就業継続の有無



注：1)集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当するこの5年間に子どもが生まれた夫婦である。  
 ①第1回調査から第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦  
 ②第1回調査時に独身で第6回調査までの間に結婚し、結婚後第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦  
 ③出産前調査時に妻が会社等に勤めていて、育児休業制度の有無のデータが得られている夫婦  
 2)「正規」「非正規」は、出産前調査時の状況である。

## 5 この5年間の平均所得の状況

年齢が高くなると男は所得金額階級が分散する傾向があるが、女は「100万円未満」の割合が最も高い。

第3回から第7回までの平均所得について金額階級別の割合をみると、26歳では男女とも「100～200万円未満」が最も高く、31歳では男は「200～300万円未満」が34.9%、女は「100～200万円未満」が30.6%、36歳では男は「200～300万円未満」と「300～400万円未満」がそれぞれ23.0%、女は「100万円未満」が40.2%と高くなっている。(表15、図12)

表15 性、年齢別にみた第3～7回の平均所得金額階級

		(単位：%)							
		総数	所得なし	100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500万円以上
男	26歳	100.0	1.3	21.3	38.0	28.5	9.5	1.3	-
	31歳	100.0	0.9	12.6	34.9	21.7	6.9	6.9	2.3
	36歳	100.0	0.2	5.9	11.9	23.0	23.0	20.2	15.8
女	26歳	100.0	1.7	19.8	43.3	29.8	4.9	0.3	0.3
	31歳	100.0	1.7	30.4	30.6	22.6	10.9	3.1	0.8
	36歳	100.0	10.3	40.2	19.7	16.1	8.3	3.7	1.7

注：1)集計対象は、以下の①及び②に該当する者である。ただし、所得金額不詳の者を除く。

①第1調査から第7回調査まで回答を得られている男性票、または女性票対象者

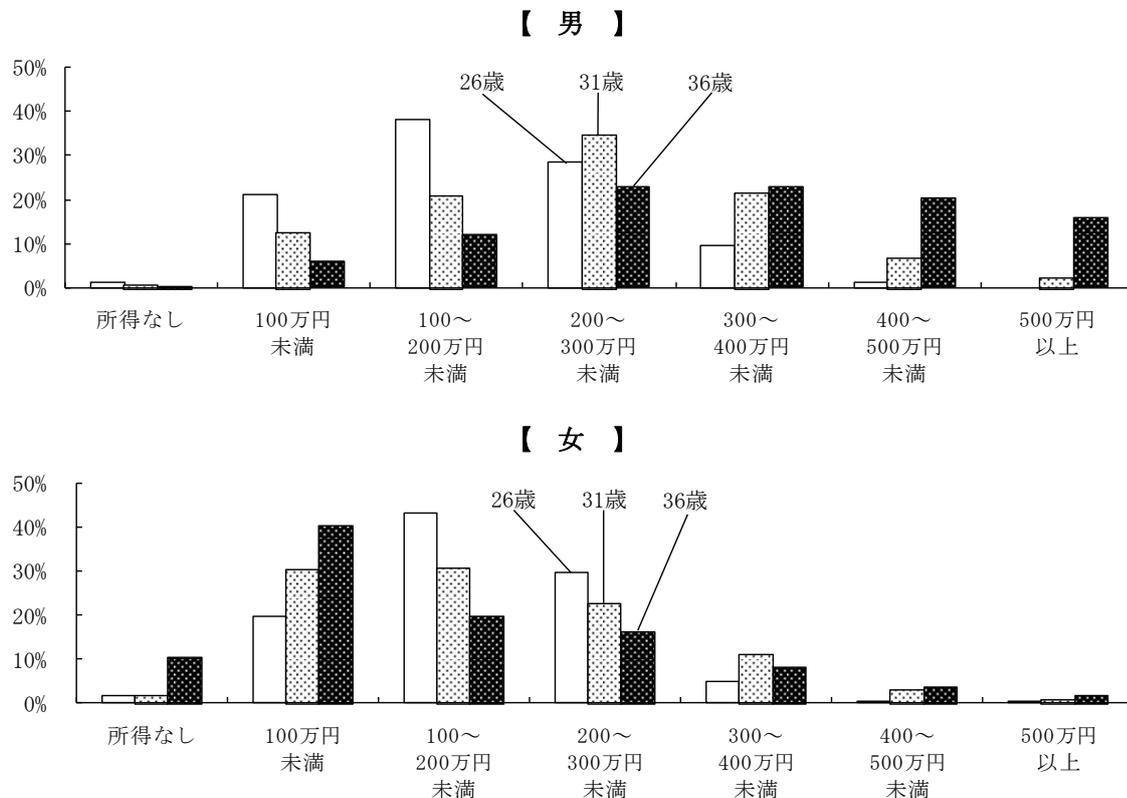
②第1回調査時の年齢が20歳(第3回調査時22歳、第7回調査時26歳)、25歳(第3回調査時27歳、第7回調査時31歳)、30歳(第3回調査時32歳、第7回調査時36歳)の者

2)年齢は第7回調査時の年齢である。

3)「所得なし」は、第3～7回調査時まで連続して所得のなかった者である。

4)金額階級は、第3～7回調査時までの平均所得金額階級である。

図12 性、年齢別にみた第3～7回の平均所得金額階級



注：1)集計対象は、以下の①及び②に該当する者である。ただし、所得金額不詳の者を除く。

①第1調査から第7回調査まで回答を得られている男性票、または女性票対象者

②第1回調査時の年齢が20歳(第3回調査時22歳、第7回調査時26歳)、25歳(第3回調査時27歳、第7回調査時31歳)、30歳(第3回調査時32歳、第7回調査時36歳)の者

2)年齢は第7回調査時の年齢である。

3)「所得なし」は、第3～7回調査時まで連続して所得のなかった者である。

4)金額階級は、第3～7回調査時までの平均所得金額階級である。

# 参 考

## 1 集計客体数一覧

### (1) 結果の概要「Ⅰ 第1回調査時の就業形態別にみたこの6年間の結婚・出生の状況」

図表番号	集計対象の条件	客体数		対象となる調査票	
		男	女	男性票	女性票
表1, 図1	第1回調査時に独身で第7回調査まで回答を得られている者	3,999	3,914	○	○
	第1回調査時に既婚で第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦である者	1,913	2,601	○	○

### (2) 結果の概要「Ⅱ 第1回調査時の独身者の結婚の状況」

図表番号	集計対象の条件	客体数		対象となる調査票	
		男	女	男性票	女性票
表2, 図2	第1回調査から第7回調査まで回答を得られている者	6,300	7,130	○	○
表3, 図3	第3回調査時の独身者	3,768	3,576		
表4	第1回調査時の独身者から、第1回調査時及び第7回調査時の結婚意欲が不詳の者を除く	3,768	3,803		
	この6年間に結婚した者	1,000	1,254		
	この6年間に結婚していない者	2,768	2,549		
表5					

### (3) 結果の概要「Ⅲ 夫婦における子どもの出生の状況」

図表番号	集計対象の条件	客体数	対象となる調査票			
			男性票	女性票	配偶者票 (男性用)	配偶者票 (女性用)
表6, 図4	夫婦（以下の①または②に該当する夫婦）	3,783	○	○	○	○
	① 第1回調査から第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦					
② 第1回調査時に独身で第6回調査までに結婚し、結婚後第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦						
表7	夫婦のうち、出生ありの夫婦から妻の「出生前データ（用語の定義12参照）」が得られていない夫婦を除き、調査対象となってから同居している夫婦	3,427				
図5	同居している夫婦のうち、子どもが1人以上いる夫婦	2,478				
	この6年間に第2子以降の出生あり	981				
	この6年間に第2子以降の出生なし	1,497				
	第1回調査から第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦	2,740				
表8, 9 図6	この6年間に出生あり	1,039				
	この6年間に出生なし	1,701				

#### (4) 結果の概要「Ⅳ 就業の状況(1~3)」

図表番号	集計対象の条件 (第1回調査から第7回調査まで回答を得られている者)	客体数		対象となる調査票	
		男	女	男性票	女性票
表10	第1回調査から第7回調査まで回答を得られている者(第2回調査時に主に通学している者を除く)	5,988	6,889	○	○
図7	第1回調査時に仕事ありで、かつ就業形態が「非正規」の者	641	1,749		
表11, 図8	第1回調査時の独身者(結婚した者は、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者を除く)	3,993	3,912		
	この6年間に結婚した者	1,034	1,272		
	この6年間に結婚していない者	2,959	2,640		
表12, 図9	この6年間に結婚し、結婚前に仕事ありの女性		1,158		

#### (5) 結果の概要「Ⅳ 就業の状況(4)」

図表番号	集計対象の条件 (「夫婦」の集計対象の条件は、上記(3)の「夫婦」と同じ)	客体数	対象となる調査票			
			男性票	女性票	配偶者票 (男性用)	配偶者票 (女性用)
表13, 図10	出生前調査時または第6回調査時に妻が仕事ありの夫婦	1,885				
	この6年間に出生あり	588		○		
	この6年間に出生なし	1,297				
表14, 図11	この5年間に出生ありで、出産前調査時に妻が会社等に勤めており、育児休業制度の有無のデータが得られている夫婦	409		○		

## 2 「1」以外の集計客体数

### (1) 結果の概要「Ⅲ 夫婦における子どもの出生の状況」

表7 夫の休日の家事・育児時間別にみたこの6年間の出生の状況

	総数	子どもなし の夫婦	子ども1人 の夫婦	子ども2人以上 の夫婦
総数	3 427	949	1 011	1 467
家事・育児時間なし	280	164	37	79
2時間未満	1 056	553	177	326
2～4時間未満	727	159	217	351
4～6時間未満	435	22	177	236
6～8時間未満	187	5	89	93
8時間以上	627	2	283	342

図5 夫の休日の家事・育児時間別にみたこの6年間の第2子以降の出生の状況

	総数	家事・育児 時間なし	2時間 未満	2～4時間 未満	4～6時間 未満	6～8時間 未満	8時間 以上
総数	2 478	116	503	568	413	182	625

(2) 結果の概要「IV 就業の状況」

図7 性、年齢階級別にみた第1回調査時に非正規だった者の第7回調査時の就業形態の変化

	総数	20～24歳	25～29歳	30～34歳
男	641	301	207	133
女	1 749	482	542	725

表12 年齢階級別にみた結婚した女性の就業継続の有無

	総数	(再掲) 正規	(再掲) 非正規
総数	1 158	727	353

表14 妻の就業形態で利用可能な育児休業制度の有無別にみた就業継続の有無

	総数	(再掲) 正規	(再掲) 非正規
総数	409	215	194

表15 (図12) 性、年齢別にみた第3～7回調査の平均所得金額階級

	26歳	31歳	36歳
男	349	359	517
女	305	350	495

## 用語の定義

- 1 「**独身者**」とは、「配偶者なし」と回答した者をいい、未婚、離別、死別は区別していない。
- 2 「**夫婦**」とは、第1回調査から第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦、または、第1回調査時に独身で第6回調査までに結婚し、結婚後第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦である。
- 3 「**結婚した**」及び「**夫婦**」には、事実上夫婦として生活しているが、婚姻届を提出していない者を含む。
- 4 「**正規**」、「**非正規**」及び「**自営業等**」は次の就業形態をいう。  
「正規」 … 正規の職員・従業員  
「非正規」… アルバイト、パート、労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員・嘱託、その他  
※なお、これらの就業形態は、勤め先における呼称を基準としている。  
「自営業等」…会社などの役員・自営業主、自家営業の手伝い、自宅での賃仕事（内職）
- 5 「**同一就業継続**」とは、勤め先、及び就業形態が変わっていないこと、また、自ら行っている事業が変わっていないことをいう。
- 6 出生の状況の「**出生あり**」とは、夫婦の双方から回答を得られてからの出生である。
- 7 「**子どもなし**」とは、「子ども」欄に記入がなかった者をいう。
- 8 「**育児休業制度の有無**」とは、「あなたのお勤めの会社等には、あなたの就業形態で利用可能な次の制度はありますか」と質問した時の、育児休業制度についての回答である。
- 9 「**家事・育児時間**」とは、1日の中で家事や育児に何時間くらい費やしているかを、平日と休日に分けて質問したものである。
- 10 「**第1回調査時**」～「**第7回調査時**」とは、それぞれの回の調査時点で把握した項目である。
- 11 「**結婚前調査時**」「**結婚後調査時**」とは、それぞれ結婚直前、直後の調査時点において把握した状況である。
- 12 「**出生（出産）前調査時**」とは、各回調査月（11月）の翌月12月から翌年5月までの出生の場合は前々回調査時（A）、6月から次の調査までの出生の場合は前回調査（B）において把握した状況である。これは、出生に係る分析において、妊娠が判明していない時点の状況を把握するものである。  
（A）出生の13～18か月前の状況  
（B）出生の7～12か月前の状況  
また、「**出生前データ**」とは、出生前（出産前）の調査時点で把握した対象者のデータをいう。
- 13 「**出生（出産）後調査時**」とは、出生直後の調査時点において把握した状況である。

- 14 「この6年間」とは、第1回調査から第7回調査までの間のことをいう。また、「この5年間」とは、第2回調査から第7回調査までの間、「この4年間」とは第3回調査から第7回調査までの間のことをいう。
- 15 「所得額」は、各回調査年の前年1年間に得た所得であり、働いて得た所得とその他の所得の合計金額である。第3回調査時では平成15年分を、第7回調査時では平成19年分を把握した。
- 16 「結婚意欲」とは、第1回調査時、第4回調査時及び第7回調査時において、配偶者がいない方を対象に「今後、結婚したいと思いますか。」と質問したものである。
- 17 「子どもをもつ意欲」とは、第1回調査時、第4回調査時及び第7回調査時において、「子どもが（もう1人）欲しいと思いますか。」と質問したものである。